

2012年2月1日
公益財団法人ヤマト福祉財団

[相馬港海上コンテナ物流基盤整備事業] 相馬港機能復旧記念式が行われました

公益財団法人ヤマト福祉財団(本部:東京都中央区、理事長:有富 慶二、以下ヤマト福祉財団)「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第二次助成先の一つである相馬市は、助成金1億300万円を活用し『相馬港海上コンテナ物流基盤整備事業』を推進してきました。応急荷役設備の代替クレーンなどの整備も完了し、2012年1月28日に「相馬港機能復旧記念式」が行われました。

相双地方の重要な物流拠点である相馬港は、地震と津波により海上コンテナ貨物に不可欠な荷役設備の大半を失ってしまいました。「機械はリースでも良い、一刻も早く港の機能を回復しなければ大切なお客様まで失ってしまう…」と助成を申請。昨年12月にはコンテナ航路再開の第一歩にまで漕ぎ着けました。今回の相馬港機能復旧記念式には、立谷秀清市長や復興に携わった多くの関係者が出席し、相双地方そして南東北の物流拠点港湾としての相馬港の新たな活躍に期待を寄せています。



1月28日、相馬港の機能回復により相双地方の産業再生が前進することを願って記念式が行われました



「国や県の長期復興プロジェクトに頼るだけでなく、いま地元でできることを考え、素早く取り組む。時間を大切にするこの姿勢こそ復興につながります。だからこそ相馬港を助成先に選びました」と家田 仁東日本大震災復興支援選考委員(東京大学 社会基盤学教授(土木学会副会長(震災担当))



左から、出航を見守る家田選考委員、立谷秀清相馬市長、有富理事長